

保存と説明

スタンウィックス砦国定史跡は、アメリカの歴史における複雑な時代についてさまざまな事実を伝えています。ニューヨーク州および合衆国の西側地域の多くのグループや機関が、公的および私的に関わらず、公園と協力してこの歴史的な遺産について伝え、関連する史跡を維持するために取り組んでいます。スタンウィックス砦および植民地時代のアメリカの歴史に関する理解を深めるため、関連する史跡、地域の歴史団体、国立公園なども訪れてください。関連する公園の具体的な情報は、公園スタッフにお聞きください。

マリナス・ウィレット・コレクション管理・教育センターは、国立公園局、ローマ市、オナイダ郡、ニューヨーク集、オナイダ先住民の協力により2005年に開設されました。センターは、ビジター説明会や展示会を行い、公園の博物館収集品として40万個以上の芸術品が展示しています。

スタンウィックス砦国定史跡は、国立公園制度で管理する400以上の公園のひとつです。国立公園局は、多くの人々がアメリカの遺産を体験できるよう、アメリカの国民が維持してきたこのような特別な場所を管理しています。国立公園局の使命は、趣味、思考、教育の目的で、自然および文化資源を現在および未来の世代のために維持および保護することです。アメリカ合衆国内の公園および国立公園制度については、www.nps.gov をご覧ください。

オナイダ連水陸路、北米の運命を変えた6マイル

何千年もの間、古代の道は大西洋とオンタリオ湖の間を行き来する旅人の生命線であるモホーク川とウッドクリークをつないできた。旅人は、この通常ルートをとってオナイダの先住民地域まで貿易品やニュース、さらには病気を遠くまで運ぶこととなった。ヨーロッパ人が到来すると、このルートは「オナイダ連水陸路」と呼ばれるようになり、アメリカの歴史の重要な時代、つまり、オナイダ連水陸路のほか、北米の

豊富な資源の源である、6部族連盟の領土、モホーク谷の支配権を国民同士で争う時代が始まった。この争いで、スタンウィックス砦は極めて重要な役割を果たした。

世界戦争

この争いは、1754年に、フランス軍とバージニア植民地の軍隊がペンシルバニアの西南部で衝突したことに始まり、「フレンチ・インディアン戦争」が勃発した。1756年には、この戦いがヨーロッパまで広がり、7年戦争となった。同じ年、フランス軍とフランス軍と同盟関係にあるアメ

公園の概要と安全に関する注意事項

入場門から砦まで、マリナス・ウィレット・センターから少し歩きます。砦の周りには3つの短い小道があります。ひとつはオナイダ連水陸路につながっています。残りの2つは、1777年の包囲攻撃に関連する場所を巡ります。パークレンジャーは、毎日定期的に約45分のガイドプログラムを実施しています。参加可能なプログラムについては、ビジターセンターのレンジャーにお聞きください。この公園は、障害者も利用できます。視覚および聴覚障害のある方が利用可能なプログラムもご用意しています。公園内のすべての建物は介護動物の利用を受け入れています。スタッフの支援が必要な場合はお申し出ください。

この砦は正確に再建されているため、慎重な行動が必要な危険が伴います。砦の内部および周辺の地面は粗く、平らではないため、注意して歩いてください。砦の大部分は木製のため、破片に気を付けてください。子供は壁および大砲、暖炉に近づけないでください。武器実演の際は指示に従ってください。砦には、ピクニックエリアはありません。ペットはひもでつなぎ、建物入り口の外につなぎとめてください。砦の内部およびビジターセンターを含む施設内は禁煙です。

スタンウィックス砦 主な歴史

1758年 - イギリスがスタンウィックス砦を建設。1758年オンタリオのキングストン、1759年ナイアガラのオスウィーゴ、1760年モンリオールのセント・ローレンス川でフランスの砦を占領。

1768年 - スタンウィックス砦で6部族と境界線条約を交渉。先住民領土、アレゲーニーの南、オハイオ川を開放して合意。条約は同じ領土に住む他の部族から反感を買う

1777年 - 8月3日にスタンウィックス砦の包囲攻撃を開始。ガンズウォートは砦を「死ぬまで守る」と誓う。セント・リージャーは、21日後、アメリカの援軍到着と同時に包囲攻撃を放棄。

8月6日、オリスカニーの戦い。イギリス軍と先住民がニコラス・ハーキマー率いる800名の市民軍を奇襲、スタンウィックス砦の解放を試みて撃退。スタンウィックス砦の兵士がイギリス愛国者と先住民の収容所を略奪。

1779年 - ジョン・サリバン少将とジェームズ・クリントンが率いる兵士がモホーク谷の襲撃の報復として6部族郡の中心、オノンダガの町を破壊。先住民の反感が激化。

1784年 - スタンウィックス砦で条約が締結され、戦争中にイギリス軍と同盟関係のある6部族との戦争が終わり、部族はニューヨークの東側、オハイオ川の北側の領土の引渡しを強いられる。

1788年 - ニューヨーク州がスタンウィックス砦でオナイダとオノンダガの領土取引を交渉し、先住民の領土を広範囲に獲得して連邦当局と先住民独立国の処理を求める。

1790年 - オノンダガとカユガがスタンウィックス砦でニューヨーク州と領土取引を交渉。獲得した領土の大部分を戦争の負債返済または兵士への返済のために売却。

1768年条約

1763年にフレンチ・インディアン戦争が終結し、フランスは北米で獲得したミシシッピ川の東側すべてを英国に引き渡した。戦争中にフランスと同盟関係にあったアメリカ先住民の英国警察に対する不満が高まり、イギリス軍に対する独立戦争が勃発した。ポンティアックの反乱は、1763年の王立宣言でアラチア山脈以西への入植を禁止した。1768年、先住民とイギリス入植者との争いを解決するため、先住民の監督者であるウィリアム・ジョンソン卿が放棄されたスタンウィックス砦で条約の交渉を行い、6部族連盟は、オハイオ川の東と南の領土引渡しに同意した。その領土に住むその他の種族はこれに激怒し、新たな紛争の場となった。

アメリカ革命戦争

アメリカの革命は、1775年のレキシントンとコンコードから1783年のパリ条約まで8年間に及ぶ。1776年、大陸会議が国の独立を論議し、国の北西部の境界を守り、西側進出の地盤を固めるためにワシントン将官にスタンウィックス砦の再建を命じた。この砦は、陸軍の北方を指揮したフィリップ・スカイラー少将に敬意を表して「スカイラー砦」と名付けられた。



1777: 戦争の転換期

1777年の夏、イギリス軍のバリー・セント・レジャー中佐(准将)は、ジョン・バーゴイン少将のニューヨーク州の支配計画の一環としてモホーク谷に攻め込んだ。この軍隊には、イギリス軍、ドイツ軍、カナダ軍の兵士とイギリス愛国者による総勢800名の兵士と、ニューヨークとグレート湖地域の先住民の戦士800名が集まった。ピーター・ガンズボート大佐が指揮する約800名の大陸兵士が駐在するスタンウィックス砦にたどり着いたレジャー中佐は、8月3日に砦を包囲攻撃した。

8月6日、スタンウィックス砦の支援に向かっていたニコラス・ハーキマー准将指揮下のトライオン市民軍は、オリスカのオナイダ谷付近でイギリス愛国者と先住民の奇襲を受けた。市民軍が撤退を迫られたオリスカ二の戦いは、家族、友人、隣人同士の戦いであった。6部族連盟の人々も互いに戦い合い、何世紀にもわたって維持してきた平和が一転した。この戦いで、ガンズボート大佐の副司令官、マリナス・ウレット中佐は、砦からの襲撃部隊を率い、敵の囚人を捕らえ、収容所を破壊し、援助物資を砦に運んだ。この包囲攻撃は、ベネディクト・アーノルド少将率いる本土からの増援部隊が到着し、砦が強化されると8月23日に終結した。スタンウィックス砦の勝利と、バーゴインの敗北、サラトガの降参により、アメリカ、フランス、およびオランダの同盟関係が結ばれた。

サラトガ運動、1777年6月～10月

サラトガ運動は、アメリカの独立はハドソン川沿いの植民地を分割することで終結できると考えたジョン・バーゴイン少将の計画だった。それは、カナダからシャンプレー

ン湖まで南下、タイコンデロガ砦を占領、ハドソンからアルバニー沿い南に進軍するというものだった。バーゴイン少将は、ニューヨークシティから北に先進していたウィリアム・ハウ卿とモホーク川沿いを東に向かっていったバリー・レジャー中佐と合流する予定であったが、ハウ卿がフィラデルフィアを占領する運動を開始してアルバニーに到着できず、レジャー中佐はスタンウィックス砦の21日間包囲攻撃に巻き込まれ、カナダに戻された。

タイコンデロガ砦を戦略した後、愛国者の士気が高まり、バーゴイン少将は、再び南下したが、ハバートンでアメリカ兵に敗北し、アン砦とエドワード砦の撤退を強いられた。さらに不運は続き、ベニントンの襲撃に送り出したヘシアン人の縦隊(ドイツの傭兵)は、ジョン・スターク准将とセス・ワーナー中佐の兵士に敗北した。南下を続けたバーゴイン隊は、ハドソンを越えて現在のステイルウォーター(ニューヨーク州)付近で停隊した。そこには、アメリカ指揮官フィリップ・スカイラー少将の後任となったホレイショ・ゲイツが指揮するアメリカ軍がビーミス・ヘイツの地位を引き継いでいた。バーゴインは、9月19日にフリーマン農場、10月7日にビーミス・ヘイツのアメリカ軍を突破しようと試みた。その攻撃は失敗に終わり、イギリス軍の指揮官は、その戦いが多勢に無勢であり、包囲され撤退できないことに気づき、1777年10月17日に降伏した。

傲慢な平和

アメリカ革命戦争は1783年に終結したが、合衆国とアメリカ先住民の戦いは終わらなかった。ニューヨークの戦争を終わらせるため、合衆国は、スタンウィックス砦の1784条約を6部族連盟と交渉した。

合衆国は、条約の期間を決め、戦争による捕虜を全員釈放するまでアメリカ先住民の人質を確保して6部族の代表者に条約の締結を強制した。6部族連盟は、オハイオとペンシルバニアの南側の領土引渡しも強いられ、国の領土が西方に拡大された。さらに、アメリカ先住民は、合衆国の境界内の主権国家に属することが決められた。1784年条約は、1780年代から90年代まで続くオハイオのアメリカ先住民戦争の引き金となった。

1788年、1790年の条約と地方議会

アメリカ革命戦争の後、スタンウィックス砦は、アメリカ先住民との接触に使われた。4つの領土取引は、連邦政府の賛同がないまま、ニューヨーク、オナイダ、オノンダガ、カユガの州により、ここで交渉が行われた。この領土取引は、後にカナンデグアの1794年条約で承認されている。毎年6月1日には、オナイダ、オノンダガ、カユガの代表者がニューヨーク州の代表者と共に領土の年間使用料を受け取りにスタンウィックス砦を訪れていた。その結果、その領土はアメリカ先住民から手放され、ニューヨーク州は運河の採掘を許可し、最終的に1827年にエリー運河が開通した。



6部族連盟との1784条約
米国国立公文書館提供の写真

砦の構造の仕組み

スタンウィックス砦は現在もアメリカ革命の時代とほぼ同じ状態を保っている。ローマ市と国立公園局は、多くのオリジナルの計画書と資料を基に、1776年の砦の忠実な複製を再建するために提携した。本棟、衛兵所、出撃路、トイレ、半月堡など、まだすべて再建されていない。ツアーマップの図には、砦の主な構造を示す番号が記されています。それぞれについては以下の用語説明を参照してください。

盛り土(もりつち)：胸壁と溝との間の細い空間。土が溝に落ちないようにするためのもの

稜堡(りょうほ)：砦の突き出た角または隅の部分。

砲郭(ほうかく)：備品を補間する、または人を収納するために砦の内壁に建てられる丸太の建物。

覆道(ふくどう)：溝の周りを走る道の一つ。斜面で作る小さな胸壁で守られている。砦の周りで小さい大砲や兵士を移動するために使用された。

カーテン・ウォール：稜堡とつながる防御設備の一部。

溝(みぞ)：敵の進行を妨害する目的で砦の周りの一部または全体を掘った部分。

銃眼(じゅうがん)：大砲を撃つために胸壁に作られた穴。幅を広くして広範囲に発射できるようにするため。

フライス：敵の奇襲から守るために城壁の外側に水平に設置された突き出した先の尖った木製の杭の柵。

傾斜(けいしゃ)：周辺地域まで広がり、砦の周辺に緩やかに斜めに作られた広大な防塁。

胸壁(きょうへき)：砦の兵士と兵器を敵の攻撃から守る城壁の上に作られた胸の高さの壁。

硝舎(しょうしゃ)：悪天候のときに見張りを非難させるために胸壁の上に作られた小さな小屋のようなもの。



砦の中

1-ウィレット・センター。 スタンウィックス砦とモホーク谷のアメリカ革命ツアーはここから始まる。各所の音声ガイドの説明を聞き、思い出にここでしか手に入らないお土産をお選びください。

2-跳ね橋。 スタンウィックス砦の跳ね橋の種類は知られていない。これは当時よく作られていた種類の跳ね橋である。釣り合いおもりを使って操作し、両端に550kgのおもりが付いている。人力でリールを巻いて橋を上げる。橋を下げる場合は、重いポールを使っておもりがレールの一番上に戻るまで橋を押し下げたと考えられている。

3-西南砲郭。 この構造は、兵士の兵舎として使われた。ドアの名前(ジャンセン)は、指揮官中隊の名前である。わらが敷き詰められた長いベッドは「クリップス(幼児用ベッドの意味)」と呼ばれ、10~12名の兵士が並んで寝た。

4-西南稜堡。 砦のベーカリー(パン製造)はこの稜堡の下にあった。兵士の主食はパンで、毎日1ポンド(約450グラム)のパンまたは小麦粉を支給された。稜堡の壁に空けられた大きな穴は、トイレへの入り口で、これは再建されていない。

5-貯蔵庫。 この建物は、備品の保管場所として使われていたが、補給大隊の部屋としても使われていた。現在は、公衆トイレになっている。

6-東兵舎。 ここは、将校、従軍商人、ドウビッドおよびブリーカーが指揮する兵士、下級将校などの宿舎として使われた。

7-出撃路。 スタンウィックス砦にたくさんある出撃路は、小隊を見えないように城の外に送り出したり、砦近くの川から水を引くなどに使われた。ウィレット中佐は、包囲攻撃の間、イギリス軍の目を盗んでここから兵士を送り助けを呼んだ。出撃路の両端にある砲郭は、兵士の兵舎として使われた。

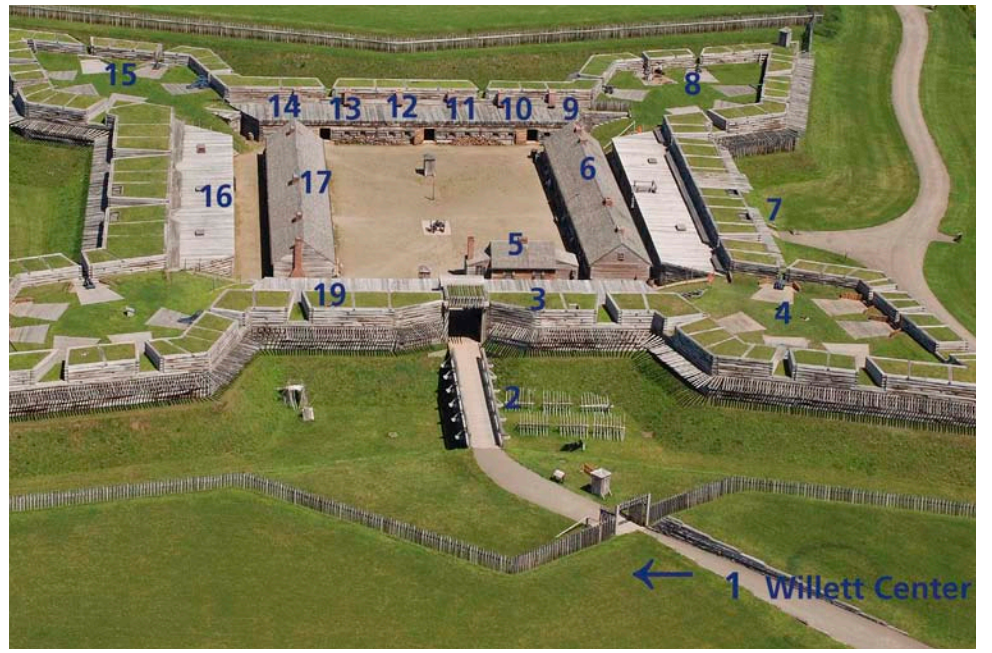
8-北東稜堡。 周囲攻撃のとき、この稜堡は完成していなかった。イギリス軍はこれを利用して包囲攻撃をかけた。イギリス船は、現在赤いレンガの高い建物がある場所、北方600ヤード(約555m)の位置に停泊した。セント・レガー隊の野営の目的は、他にあった。

9-将校の宿舎。 スペースとベッド不足により、兵士の寝台や、将校用宿舎の家具の節約が図られ、特に包囲攻撃の間は4~8名の将校がこの場所を共有した。

10-砲兵将校の宿舎。 包囲攻撃の間、この宿舎は、マサチューセッツとコネティカットから30名の砲兵隊を率いたジョセフ・サビジ中佐が使用した。

11-司令官の宿舎。 ピーター・ガンズボート大佐は司令官の宿舎として最も豪華な家具が置かれたこの部屋にした。ガンズボート大佐は、「子牛、鳩、さまざまな魚」など、豪華な食事も採ることができたと記されている。

12-スタッフルーム/ダイニングルーム。 この部屋は、昼間はガンズボート大佐のオフィスおよび将校のスタッフルームとして使用された。夕方になると、将校が食事をする部屋となり、社交場にもなった。



13-将校の宿舎。 このサイズの部屋は、2~3名の将校が共有した。部屋に何も置いていないのは、守備兵が連隊が変わる状況を見やすくするため。

14-暖炉ルーム。 元は将校の宿舎であったこの部屋は、1970年代の遺跡発掘で発見された基板と暖炉が展示されている。

15-北西稜堡。 包囲攻撃のとき、イギリス軍は砦の武器供給を停止するため、弾倉が下にあるこの部屋が攻撃された。

16-西砲郭。 ここも元は兵士の兵舎であり、南東砲郭と同様にクリップスが並べられた。

17-西兵舎。 ここも元はグレッグ大尉の率いる兵士の兵舎であった。現在は、レンジャー本部であり、革命時代のアメリカの生活を紹介するショートフィルムが上映されている。

18-南西稜堡。 現在は旗棒が立つこの稜堡の下には、兵士が治療を受けた臨時的病院があった。さまざまな医療器具が展示されている。

19-南西砲郭。 ここは、砦で働く民間人の宿舎であった。現在は、公園事務所であり、一般公開されていない。





National Park Service
U.S. Department of the Interior

Fort Stanwix National Monument
112 E Park Street
Rome, NY 13440

EXPERIENCE YOUR AMERICA™

すべての道はローマに通ず

スタンウィックス砦は、ニューヨーク州のダウンタウン「ローマ」のジェームズ・ストリートとエリー・ブルバードの角にあります。ウィレット・センターは、毎日朝9時から午後5時の間公開されています。米国の感謝祭、12月25日、1月1日は休館します。ビジターセンターのGPS アドレスは、100 North James Street, Rome, NY 13440 です。ローマまでのすべての主要州道 (26、46、49、69、365、90) は史跡につながっています。ニューヨーク高速(90)からローマに行くには、ニューヨーク州ウェストモーランドの32番出口を出てから標識に従ってローマのダウンタウンに向かいます。史跡付近には市営の駐車場があります。史跡から2ブロック以内のリバティ・ストリートにバス停があります。1マイル以内のマーティン・ストリートに Amtrak の駅があります。一番近い民間空港は、ニューヨーク州のシラキユースです。

詳細 :

郵便番号 :

National Park Service
Fort Stanwix National Monument
112 E Park Street
Rome, NY 13440
USA

電話番号 :

1-315-338-7730

ホームページ :

www.nps.gov/fost
www.nps.gov/revwar
www.nps.gov





国立公園局の概要



幹部

局長 メアリー A. ボーマー
副局長 ダン ウェンク
副局長 カレン テイラーグッドリッチ

監督

国立公園局は、米国内務省の局のひとつです。国立公園局は、国立公園システムを構成する 388 のユニットを監督しています。

予算

- ✓ 2005 年度予算承認額 - 23.15 億ドル (1 ドル 120 円相当で約 2,778 億円、以下同様)
- ✓ 2006 年度予算要請額 - 22.49 億ドル (約 2,699 億円)
- ✓ 国立公園は、地元経済に毎年 22.6 万を超える職と 110 億ドル (約 13,200 億円) を超える効果を及ぼしています。

国立公園局の使命 (ミッション)

国立公園局は、人々がそれらを楽しみ、教育のために使い、感動を受け、そして次の世代に引き継ぐことができるよう、国立公園システムの有する自然及び文化資源並びに価値をそのままに保つことを使命 (ミッション) としています。国立公園局は、わが国のみならず世界各地において、自然及び文化的な資源の保全及び野外レクリエーションから得られる恩恵をより高いものとするために、関係者と協力しています。

国立公園システムの歴史

国立公園局は、1916 年 8 月 25 日にウッドロー・ウィルソン大統領によって署名された米国連邦議会の法

律に基づき創設されました。イエローストーン国立公園は、1872 年 3 月 1 日にユリシーズ S. グラント大統領によって署名された法律によって、わが国最初の国立公園として設立されました。

国立公園システムを構成する管理地域

国立公園システムは、“ユニット”と呼ばれる 390 箇所の管理地域から構成されており、その総面積は 8,400 万エーカー (約 34 万平方キロメートル) 以上にも及びます。これらの管理地域には、国立公園、史跡、戦跡、軍事記念公園、歴史公園、遺跡、湖岸、レクリエーション地域、景観の優れた河川及びトレイル、そしてホワイトハウスなどが含まれます。連邦議会の 2 年間の会期ごとに、平均して 4 ~ 5 の新しい公園ユニットが新設されています。公園ユニットの数は、1970 年当時に比較して 50% 近くも増加しています。

国立公園局の職員

国立公園局では、約 20,000 人の様々な分野の正規職員 - 常勤職員、臨時職員及び季節雇用職員 - が勤務しています。加えて、毎年 140,000 人の公園ボランティア (Volunteer in

す。2004 年度には勤務時間はのべ 500 万時間以上にものぼり、国立公園局の職員数に換算して 2,403 人、8,590 万ドル (約 103 億万円) に相当する貢献を果たしています。協力団体 (Cooperative associations) は、店頭で公園に関係する商品を提供することによって、公園で教育及び自然解説活動体験の効果を高めています。合計 65 の協力団体は、年間 2,600 万ドル (約 31 億円) の寄付を提供してくれています。フレンズ・グループ (Friends Group) は公園の非営利協力団体です。150 を超えるグループが、160 の公園を支援しており、その寄付額は年間およそ 5,000 万ドル (約 60 億円) です。国立公園基金は、連邦議会の決定に基づき設立された国立公園局の支援団体であり、過去 7 年間で 1 億 3,700 万ドル相当 (約 164 億 4 千万円) の贈与とプログラム支援を行っています。

営業権所有業者

国立公園局は、家族経営の小さな会社から巨大な企業と経営規模の異なる約 600 の営業権所有業者と、120 の公園ユニットにおいて請負契約を結んでいます。

- ✓ 営業権所有業者は、ビジターに対して、宿泊、交通、飲食、小

Parks: VIP) が、職員を補助しています。国立公園局は、全ての人が私達の遺産を体験することができるよう、米国の人々によって守られてきた特別な場所を管理しています。

あなたのアメリカを体験してください

売、その他のサービスを提供しています。

- ✓ 被雇用者数は約 25,000 人(国立公園局職員数を上回る)
- ✓ 総収入は年間およそ 8 億ドル (約 960 億円)
- ✓ 入場料金、特別会計(営業権料の代わりとして)など政府への還元額は、2004 年度で約 5,100 万ドル(約 61 億円)と見積られています。

請負契約

- ✓ 建設事業の調査・設計の 95%は契約業者を通して実施されています。
- ✓ 実際の建設工事のほぼ 100%は請負契約により実施され、同様に建設事業の監理・監督のほぼ 100%、ワシントン DC 本局の IT 予算の 80%が請負契約により実施されています。

請負契約によって実施された国立公園局の業務の例：

- ✓ 清掃保守管理；ゴミ収集；ボート及び自動車修理；人事サービス(職種の分類作業)；ホームページ保守；国内環境政策法 (NEPA: National Environmental Policy Act) 遵守手続き；文化的資源に関する研究・報告；樹木管理；トレイル修復

パートナーシップ：国立公園局の一部 過去と未来

- ✓ 当初から、ボランティアや地域のパートナーシップは、国立公園局の使命を推進するためになくはない役目を果たしてきています。
- ✓ 今日、国立公園局は数十万ものパートナーシップを結んでいます。そのパートナーは、地方団体から、大学との共同研究プロジェクトや国立公園

基金との資金調達など多岐にわたります。

- ✓ パートナーシップは、国立公園局の使命を果たすために不可欠です。局内のどのレベルにおいても、統制をもって協力関係が構築されています。
- ✓ 現在、150 を超えるフレンズ・グループ(Friends Group)が、全国の国立公園を技術/経済支援しています。フレンズ・グループの登録名簿をご覧になりたい方は：
www.nps.gov/partnerships
- ✓ 毎年 14 万人を超えるボランティアが、国立公園局の使命を達成するために、時間と労力と専門技術を持って支援しています。参加されたい方は：
www.nps.gov/volunteer
- ✓ 連邦議会によって公認された国立公園基金は、民間からの基金募集、戦略的な補助金交付、革新的なパートナーシップの創造、国民意識を高めることによって、国民と彼らの国立公園との持続的な結びつきを強化しています。基金についての詳しい情報は：
www.nationalparks.org
- ✓ 自然資源管理分野においては、外来植物管理チームのように、単一の公園のみではなく、複数の公園を対象として管理作業を行うような新しい戦略をとって

います(この戦略では、16 に及ぶチームがパートナーシップによる資金 150 万ドル(約 1.8 億円)に支援され、209 を超える公園で、管理作業を行っています)。共同生態系研究ユニット(Cooperative Ecosystem Study Units: CESU)ネットワークは、国立公園局、12 の政府機関、181 の大学及び他の協力団体から構成されています。CESU により、学術的な専門技術と土地管理の経験が統合されています。また、CESU は研究する能力、技術的な支援、及び教材などを国立公園局に提供しています。

国立公園局による保存及び保護の取組み

- ✓ 369 種の絶滅危惧種及び希少種の生息地
- ✓ 1 億点を超える学術収蔵品
- ✓ 150 万箇所の考古学遺跡
- ✓ 27,000 の歴史的建造物
- ✓ 歴史保存税インセンティブ(市街地及び集落の中心地区を再生するための民間投資が、毎年 27 億ドル(約 3,240 億円)以上の規模で誘発されている。)

利用 - レクリエーション利用者数統計

- *2004 年▶ 2 億 7,700 万人
- 1989 年▶ 2 億 5,600 万人
- 1969 年▶ 1 億 6,400 万人
- 1949 年▶ 3,200 万人
- 1929 年▶ 300 万人
- 1919 年▶ 81 万人

*2003 年から 2004 年にかけてビジター数は 4 % 増加しています。

国立公園局は、全ての人々が私達の遺産を体験することができる米国の

料金収入

あなたのアメリカを体験してください
2004 年度におけるレクリエーション料金収入*は 1 億 5,780 万ドル(約 189 億円)であり、その 85%はフリープログラムからの収入である。

*註: 料金収入額には、連邦政府レクリエーション・バスポート・プログラム収入分 1,530 万ドル(約 18 億円)が含まれていません。

キャンプ設備

国立公園システムの 120 以上の管理地域でキャンプが可能です。キャンプ施設は、テント宿泊やキャンピ

ングカー利用のための区画から、便益施設の全くないバックカントリーサイトのような、簡素なタイプのキャンプまで、あらゆる利用形態に対応しています。キャンプ場は、国立公園局もしくは営業権所有者によって経営されています。

最大の管理地域

アラスカ州ランゲル・セントエリアス国立公園・保護地域：1,320 万エーカー（約 53,420 平方キロメートル）。アラスカを除く米国本土では、カリフォルニア州デスバレー国立公園：330 万エーカー（約 13,360 平方キロメートル）

最小の管理地域

ペンシルバニア州サディウス・コジアスコ国家記念公園：0.02 エーカー（約 81 平方メートル）

国立公園局資産目録

(2004年10月現在)

主要な資産の種類	資産量
舗装された道路	5,456 マイル
舗装されていない道路	4,336 マイル
トレイル (歩道)	14,402 マイル
キャンプ場	1,001
建築物	19,733
職員宿舎	4,841
水処置システム	1,336
廃水処置システム	1,527

これらの 8 つのカテゴリーは、他の機関もしくは産業設備管理の資産ポートフォリオに対応しています。国立公園局は、全体で 30 を超えるカテゴリーの資産を管理しています。カテゴリーには、保全景観、ピクニックエリア、水路、記史跡及び要塞、遺構、ならびに、航空及び鉄道シス

テムなどが含まれています。これらの多くの資産を永続的に保護していくことが、国立公園局に求められている特別の任務といえます。